

うたごよみ

曾於文藝

「題字」

末吉文化協会会員

瀬戸口 淳民氏

俳句 千草俳句会

すいれんの白の際立ち池広し

児玉 タエ子

舟の波解きては結ぶ花筏

田之上 千代子

田之上 千代子

とび交ひて蝶の学園苑の池

今村 久子

大隅俳句会

窓辺にて夏めく風に髪を梳く

穎姫 晴美

軒零ばとりと落ちて梅雨に入る

河南 ミホ

杉の秀にからみて咲ける藤の花

ハンガーにいびつに架かるブレザーは
昨日のストレス引きずりてゐる

伊勢 タミ子

天空に對き風と遊べり

宝蔵 弘二

老鷺の訪れ遊ぶ里の宮

岩重 みどり

患いて手入れ届かぬ君子蘭七鉢

吉崎 フサ子

すべて咲きてくれたり

橋口 貞男

散歩する日毎の姿そのままに
歳相応の影を写しぬ

加塩 秀子



雨中の田植え（穂小学校）

短歌 末吉短歌会

ゆっくりともっとゆっくりと
過ぐるべし手術控えし春の十日間

田之上 紗子

不機嫌なひよどりの声中空に
初夏と言ふにキミもつらいか

長倉 佳津子

ハンガーにいびつに架かるブレザーは
昨日のストレス引きずりてゐる

宝蔵 弘二

腰痛の悩みもとけて旅にでる
我がゆく先に春の風舞ふ

井上 澄子

腰痛の悩みもとけて旅にでる
我がゆく先に春の風舞ふ

田之上 紗子

指先にそつと身を置きし揚羽蝶

ふ化したばかりの羽は壊れそふ

はつ夏の光を浴びて競ふがに

日に日に伸びる庭の若草

杉村 リカ

新緑のけやき並木は心地良し

我の煩惱うすめてくれぬ

祝迫 道雄

桜の秀にからみて咲ける藤の花

天空に對き風と遊べり

伊勢 タミ子

軒零ばとりと落ちて梅雨に入る

河南 ミホ

舟の波解きては結ぶ花筏

田之上 千代子

窓辺にて夏めく風に髪を梳く

穎姫 晴美

老鷺の訪れ遊ぶ里の宮

岩重 みどり

患いて手入れ届かぬ君子蘭七鉢

吉崎 フサ子

すべて咲きてくれたり

橋口 貞男

散歩する日毎の姿そのままに
歳相応の影を写しぬ

加塩 秀子

財部短歌会

一口に躊躇と言へど散るもあり
咲き誇るあり人の世もまた

瀬戸口 芳子

みずみずし若葉の香る遊歩道
行き交ふ人の声もさわやか

川俣 若

みずみずし若葉の香る遊歩道
行き交ふ人の声もさわやか

桐野 奈世

腰痛の悩みもとけて旅にでる
我がゆく先に春の風舞ふ

森山 厚香

仲良態の夫婦蛙つ妬ん
独い者

蛭ちや鳴れつ

干し物ぬ取入れめちやれ

桐野 奈世

煩ね農作業蛙の寝床も
削つ切つ

大窪

蛭の如つ漸と臨月腹れ
嬉し嫁

鈴木 一泉

仲良態の夫婦蛙つ妬ん
独い者

森山 厚香

薩摩狂句 にがごい会末吉支部

にがごい会末吉支部